



Copyright © 2020 東京湾再生推進会議、九都県市首脳会議、東京湾岸自治体環境保全会議、東京湾再生官民連携フォーラム All Rights Reserved.

東京湾環境マップ

～東京湾と人とのつながり～

いままでの実施日と調査機関・地点数
平成20年7月2日 47機関、605地点
平成21年8月5日 148機関、749地点
平成22年8月4日 131機関、750地点
平成23年8月3日 139機関、820地点
平成24年8月1日 154機関、903地点
平成25年8月7日 174機関、799地点
平成26年9月3日 167機関、689地点
平成27年8月及び9月 荒天のため中止
平成28年8月3日 156機関、608地点
平成29年8月2日 176機関、1039地点
平成30年8月1日 204機関、649地点
令和元年8月7日 210機関、1091地点

東京湾環境一斉調査と本マップについて

東京湾の環境再生は、「海」だけではなく、東京湾へ注ぎ込む「川」にも深い関係があります。私たちは、このことを一人でも多くの皆さんに知っていただき、東京湾の環境に対する興味や関心を抱いてもらうことを目的として、平成20年度から東京湾環境一斉調査を行っています。毎年度決められた日に、海（東京湾）と陸（河川等）で、市民の方や企業、研究機関、行政機関等に協力をいただき一斉に水質や生き物の調査を行う活動は、今年度で12年目を迎えました。これまでの調査で得られた貴重なデータは、東京湾の環境改善に活用されています。

本マップは、本調査に参加された方々から提供いただいたデータをもとに、下記団体が連携して計画立案、編集発行するものです。本年度は「東京湾と人とのつながり」をテーマに、東京湾の環境と人の繋がりに焦点をあててとりまとめました。東京湾の環境に興味をもつ方々へ広くご活用いただければ幸いです。

令和2年（2020年）3月
Vol.14

東京湾再生推進会議モニタリング分科会
九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会

東京湾岸自治体環境保全会議
東京湾再生官民連携フォーラム（東京湾環境モニタリングの推進プロジェクトチーム／東京湾の窓プロジェクトチーム）

東京湾と人とのつながり

海の藻類は太陽のエネルギーを受けて、酸素を作り出し、有機物を生産します。人々は、そうした恵みから食料を得るとともに、物流の拠点として、余暇の場、信仰の場として海とつながってきました。



東京湾の海苔ひび歌川広重「名所江戸百景 南品川鮫洲海岸」



通安市郷土資料館資料より

高度成長期の開発による埋め立て、東京への人口集中による淡水供給の増加、富栄養化などにより、東京湾の水辺は変化してきました。

いつの間にか、人々と海辺、水辺の距離が広がっていたのかもしれない。

今回の東京湾マップは、「東京湾と人とのつながり」をテーマに、その体制や運河域、干潟域、河川での取り組みを取り上げるとともに、東京湾の窓施設の紹介、関係者からのメッセージを掲載しました。

本マップについてのお問い合わせ
編集事務局：海上保安庁海洋情報部東京担当
〒100-8932 東京都千代田区霞が関3-1-1 TEL: 03-3595-3636

協働事務局：東京湾再生官民連携フォーラム 東京湾環境モニタリングの推進プロジェクトチーム
海辺づくり研究会 古川 恵太 (PT長) Email: keita@meic.jp Web: umibeken.blue.coccon.jp/

発行：国土技術政策総合研究所 沿岸海洋・防災研究部海洋環境研究室
〒239-0826 神奈川県横浜須賀町長瀬3-1-1 Web: www.ysk.niim.go.jp/kakubu/engan/kaiyau/intro-ra.html

未来の東京湾と人のつながりの再構築に向けて

令和元年（2019年）12月4日に東京湾再生官民連携フォーラムから東京湾再生推進会議へ、「東京湾の再生に向けたパブリック・アクセス*政策に関する政策提案」および「未来の東京湾と人のつながりの再構築に向けた、東京湾の窓施設*のネットワーク推進に関する提案」が提出されました。

パブリック・アクセス方政策提案では、海辺に行きやすくするための方策について、スマートフォンの利用や提供情報の冊子化など具体的な方法が提案されました。また、東京湾の窓施設のネットワーク推進に関する政策提案では、東京湾の窓施設の利活用を活発化するための教育分野との連携や、各地の東京湾の窓施設の横断的活動を活性化するための施策の推進などが提案されました。

東京湾の再生のための官民の協働体制

東京湾再生推進会議

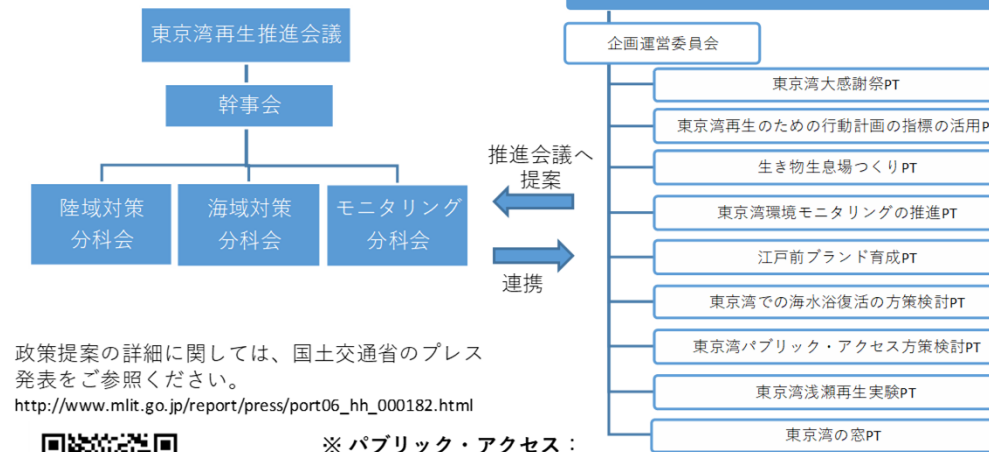
○都市再生プロジェクト第三次決定（平成13年12月）に基づき、平成14年2月に設置された。
○平成25年5月に「東京湾再生のための行動計画（第二期）」を策定

（メンバー）
○関係省庁
内閣府地方創生推進事務局、国土交通省、海上保安庁、環境省、農林水産省、林野庁、水産庁
○地方自治体
埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、横浜貿易

東京湾再生官民連携フォーラム

○多様な主体の参画による議論の活性化・多様化を図るため、平成25年11月に設立された。
○フォーラムでは、東京湾再生に係る課題や科学的知見、取り組み、ノウハウを共有する。

（メンバー）
○学識者、企業、NPO団体、行政関係者など
登録会員数 個人会員317名、団体会員120団体（令和元年11月現在）



政策提案の詳細に関しては、国土交通省のプレス発表をご参照ください。
http://www.mlit.go.jp/report/press/port06_hh_000182.html

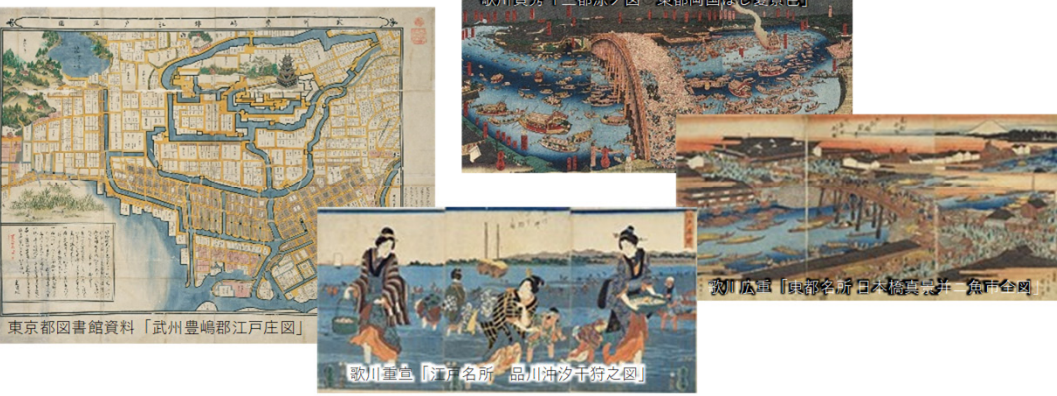


※パブリック・アクセス：
市民が公共の資源や財産にアクセスすること。フォーラムでは、生活の場から海へ気軽に近づくことをパブリック・アクセスと呼んでいます。

※東京湾の窓施設：
東京湾の環境と魅力を紹介する東京湾関連施設のことを、フォーラムでは東京湾の窓施設と呼んでいます。

運河域でのつながり

運河の昔「江戸の町」：徳川幕府は江戸の町を発展させるため、運河網を整備し、佃島へのゴミの搬入や、し尿の上流の農地への搬出などを行いました。物流・商業の拠点としての「河岸（かし）」や「湊（みなと）」が整備され、魚市場や川開きの花火大会など賑わいが創出されていきました。また、水辺は潮干狩りなど万人に開放された空間でもありました。



運河の今「（京浜運河）芝浦・天王洲運河」：芝浦・港南・天王洲地区は今も再開発が進んで、運河沿いにマンションや商業施設が立ち並び、運河沿いの遊歩道は昼夜、住民や働く人々にとっての憩いの場になっています。夏から秋にかけては各所で運河まつりが行われ、地元、家族連れの方々が賑わいます。（情報提供：運河を美しくする会）



運河の今「大森ふるさとの浜辺公園」：京浜運河の奥に平成19年（2007年）に造成された人工の浜辺は、散歩や水遊びなどで海に直接触れることができるため、多くの人が訪れます。海苔のふるさと館では夏には生き物の観察会、冬には昔の地で盛んだった海苔養殖の再現を行っています。（情報提供：大森海苔のふるさと館）

干潟域でのつながり

東京湾は、昭和40年代から50年代の大規模な埋め立てによって、多くの自然海岸が消失しました。わずかに残った、または復元された東京湾内の干潟では、そこにくらす多様な海の生き物を見ることができます。また、周辺施設による観察会が行われることもあります。



潮が引くと現れる干潟。季節や時間によって、その表情は驚くほど変化します。



東京湾最奥部に位置する三番瀬干潟には、多くの生き物を見ることができます。（※千葉県「ひがしハンドブック」より）



ふなばし三番瀬環境学習館での観察会の様子

表面のクイズの答え A アカテガニ B コメツキガニ C タカノケフサイソガニ

河川のつながり

令和元年（2019年）10月12日に日本に上陸した台風19号（ハギビス / Hagibis）は、関東地方、甲信地方、東北地方に記録的な大雨をもたらしました。増水の影響は湧水にもおよび、多摩川支川の野川では湧水量が多くなり、湧水地点の底生の生きものなどが少ないという状況が観察されています。（情報提供：みずとみどり研究会）



下流にある六郷橋（5 km）でも、10月13日12時の時点で、水位が橋の下4-6 mにあり、濃い茶色の水が強く流れていました。港町水門付近に泥水被害があった他、水防センター（大師河原干潟館）の堤外地には10-40 cm程度の軟泥の堆積が見られたそうです。（情報提供：みずとみどり研究会）

東京湾の窓施設とスタンプラリー

東京湾の窓PTは、昨年度に引き続き、「東京湾ぐるっスタンプラリー」を東京湾沿岸の14施設の協力により開催しました（令和元年8月1日～11月30日）。

特徴のある東京湾の窓施設をスタンプラリーで楽しみながら親子、ファミリー、グループやカップルなどで回り、東京湾の様々な顔を知るきっかけづくりになることを期待しての取り組み活動です。

東京湾の窓施設は、東京湾の環境と魅力を紹介する東京湾関連施設です。インタープリターや学芸員等の専門スタッフを配置しており、年間を通じて様々な体験・学習プログラムを提供しています。

スタンプラリーだけでなく、市民参加で実施される生物調査活動は、市民が東京湾に親しみ、楽しみながら市民参加型の東京湾のモニタリング活動および保全活動に参加する機会となっています。

また、近年注目を集める海洋ごみ、海洋プラスチックごみなどは、東京湾においても問題となっており、環境改善への取り組みはより一層重要となっています。

あなたも、東京湾の窓施設を訪れ、さまざまな活動に参加してみませんか。（情報提供：東京湾の窓PT）

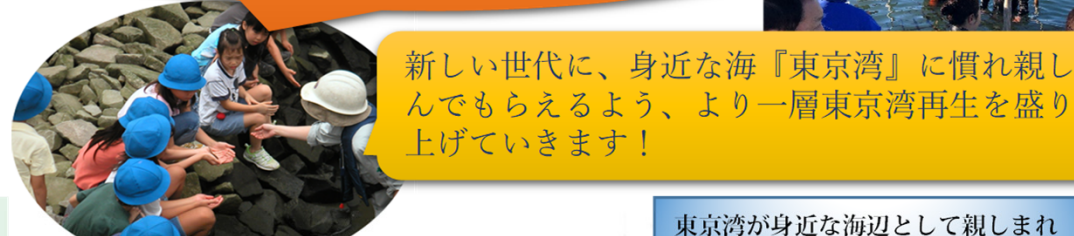
スタンプラリーや東京湾の窓施設の詳細については、フォーラムのWebサイトを ご参照ください。
<http://tbsaisei-csr.net/stamp/>



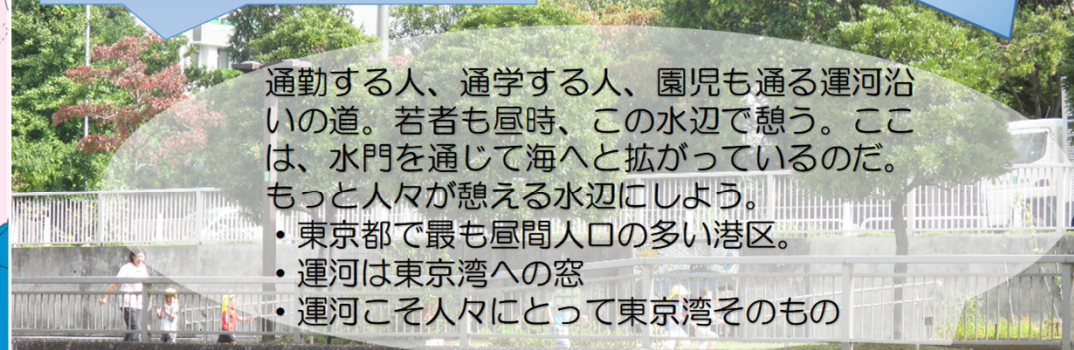
※ 2019年度東京湾スタンプラリーに参加した機関

つながりの再構築に向けて

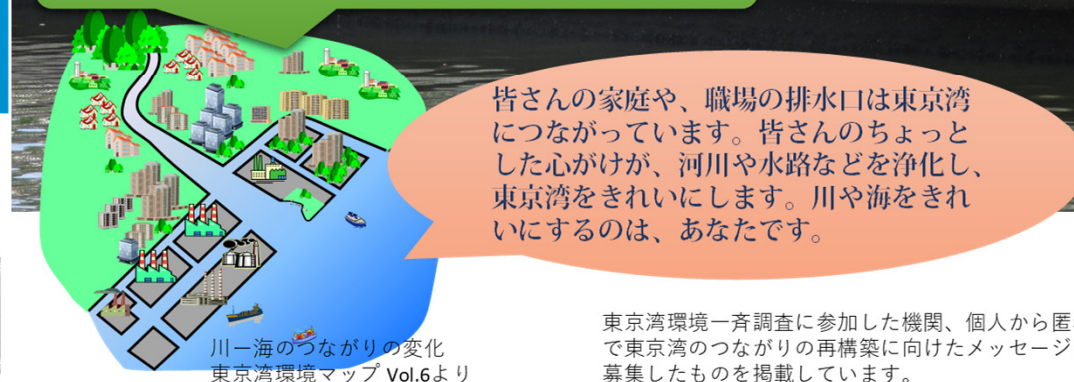
運河を美しくして 豊穡の海・東京湾をとり戻そう！



施設の連携を通じて、東京湾のいろいろな魅力を多くの人に伝えていきたいと思っています。



東京湾の自然を参加者に楽しんでいただけるような、より一層魅力的な取り組みにしていきたいと思います！



川一海のつながりの変化 東京湾環境マップ Vol.6より

東京湾環境一斉調査に参加した機関、個人から匿名で東京湾のつながりの再構築に向けたメッセージを募集したものを掲載しています。